G's Academy Tokyo Pro Android デベロッパーコース





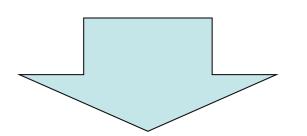
Volleyとは



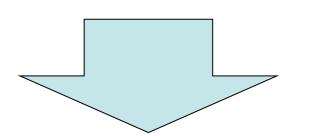
ネットワークにHTTPリクエストし、データを取得して、アプリの画面(Activity)に表示する為には、大きく分けて以下の工程が必要となる。

- ① ネットワークに繋がっているかのチェック
- 2データのリクエスト
- ③データのレスポンス
- ④データのパース(レスポンスデータがjsonやxmlの場合)
- ⑤データのキャッシュシング(レスポンスデータが画像の場合のディスクキャッシュ、メモリーキャッシュ両方)
- 6データの画面表示

開発者は全ての工程をコーディングしないといけない。 実装するは、幅広く且つ複雑な処理が求められる。







そこで登場するのが、Volleyライブラリ! これらの処理をVolleyクラスが一括で担ってくれる!

Volleyライブラリを使えば、ネットワークのデータ(レスポンスデータ) 取得と表示が簡単に出来る!

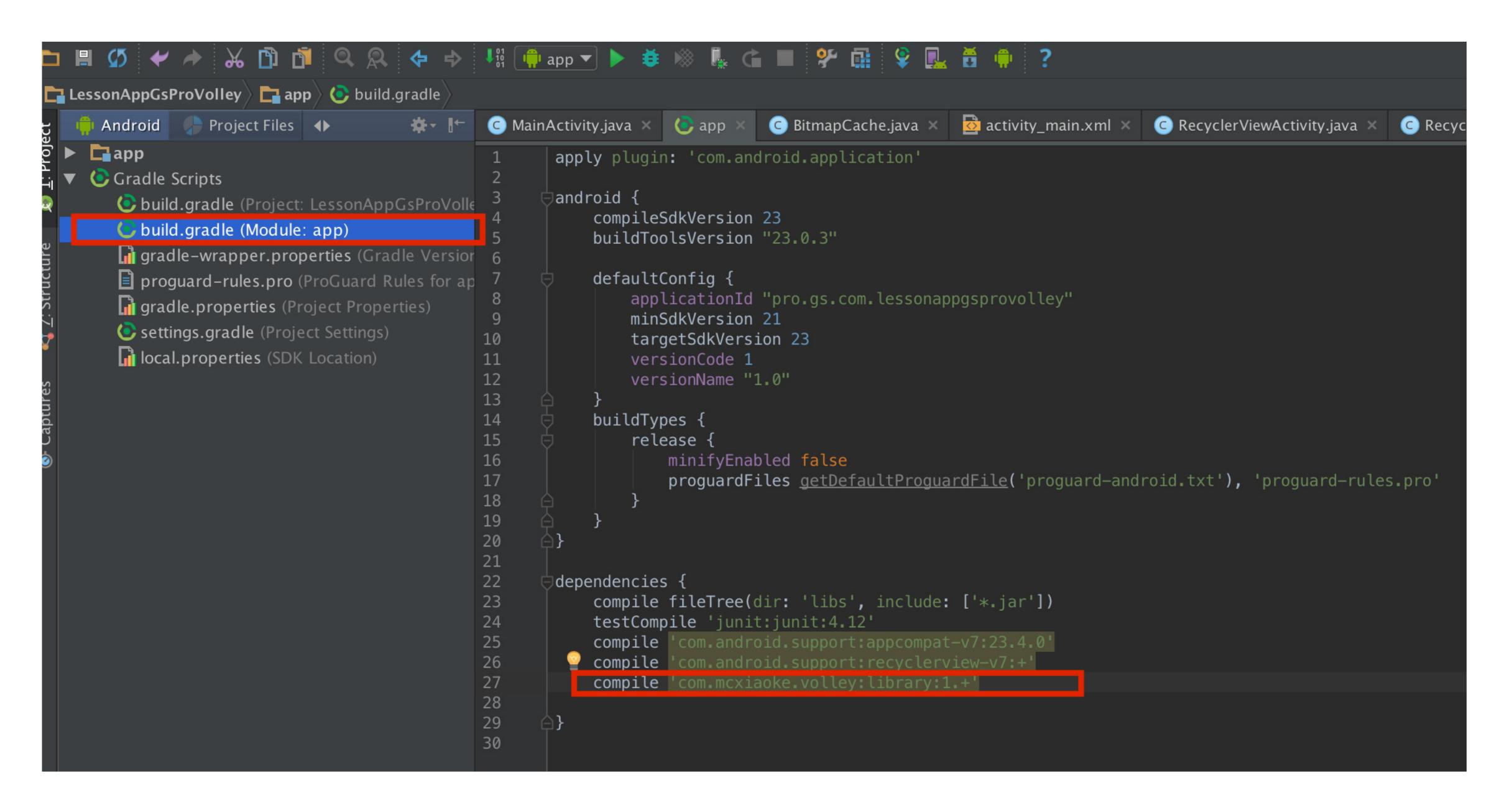
HTTP リクエスト処理を一括で担うネットワーク処理用のオープンライブラリである。 (Googleによる検証で最速の通信ライブラリらしい)



オープンライブリーであるVolleyモジュールをロードするように、gradleファイルに設定する。

```
ビルドファイル build.gradle にて以下を記述します。
dependencies {
    compile fileTree(dir: 'libs', include: ['*.jar'])
    compile 'com.android.support:appcompat-v7:21.0.3'
    compile 'com.mcxiaoke.volley:library:1.+'
}
```







インターネットを使えるようにする。

Androidアプリの設定ファイルであるAndroidManifext.xmlにて以下を記述します。 この記述によりインターネットの利用を許可する。

<uses-permission android:name="android.permission.INTERNET" />

